

直接参加によるバリアフリー実態点検調査

1. 調査目的

高齢者、障害をお持ちの方々と共に重点整備地区内を歩くことで、バリアの実態を把握します。また、交通事業者、関係職員は車いすや高齢・障害の疑似体験装具をつけ、普段、気づかない、または、見た目では確認できないバリアを体感し、認識します。

この調査は、今後のバリアフリー整備に向けた共通の基礎的知見を得ることを目的とします。

2. 調査の進め方

タウンウォッチング調査をするにあたり、事前説明会として、本調査の主旨説明、及び調査員となっていただく方のより詳しい日常生活の行動範囲やバリアフリーに関するお考え等を聞くためのヒアリング調査を、タウンウォッチング調査日とは別に日を設けて実施します。

以下、事前説明会で実施した調査員（障害者、高齢者等）に対するヒアリング調査結果とタウンウォッチング調査（検討会の結果）を分けてまとめました。

3. 調査概要

3-1. 事前説明会でのヒアリング調査

1) 実施日時および場所

日 時：平成 13 年 10 月 19 日（金） 9：30 ～ 12：00
場 所：ゆうゆうセンター 3 階 展示活用室

2) 参加者人数：55 名

調査員：16 名（肢体不自由者：2 名 視覚障害者：2 名 聴覚障害者：2 名 高齢者：3 名 疑似体験者：7 名）
介助者等：6 名
ヒアリングスタッフ：14 名（摂南大学田中研究室生）
協議会委員・事務局等：19 名

3) 主な内容

外出状況
事故・ハプニング・困り事等
施設側への対応要求 等

4) 調査結果

外出状況

『外出時の介助者の有無』については9人中4人が“ほぼ1人で外出”しており、また3人が“場所によっては介助”されています(図1)。『外出頻度』は、“ほぼ毎日”と“週に2~3回”外出されているのが、それぞれ4人おられ、比較的外出頻度が高い方々であることが確認できます(図2)。

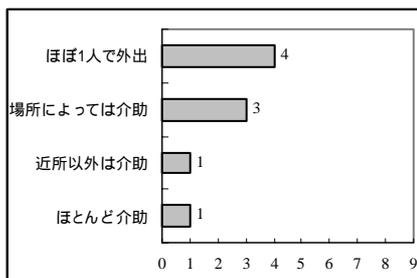


図1 外出時の介助者の有無

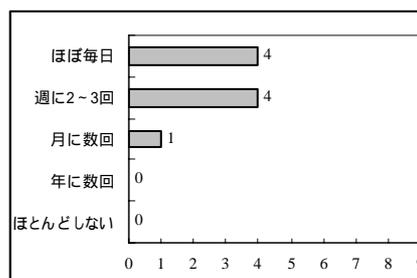


図2 外出頻度

『JR 河内磐船駅の利用頻度』および『京阪河内森駅の利用頻度』は共に、“ほぼ毎日”利用する人はいません(図3,4)。

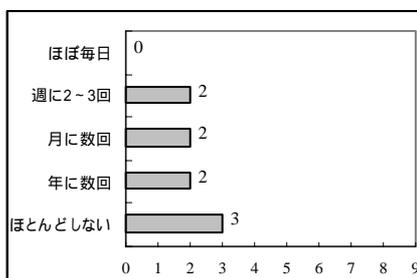


図3 JR 河内磐船駅の利用頻度

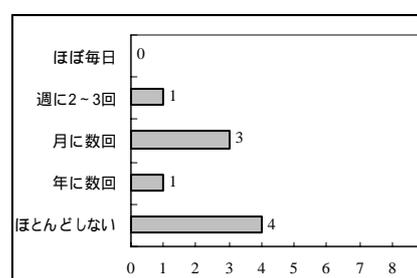


図4 京阪河内森駅の利用頻度

『外出する際の事前準備の有無』では、約半数の5人が何らかの準備をしていることが確認できた。特に車いす使用者の方は、“大阪府下の駅の乗り場やトイレの位置、エレベータの有無など細かく記載されている「車いすガイドブック」で確認の上での移動”や“車いすでも使えるトイレがどこにあるか”についての下調べをしていることが分かります(図5)。

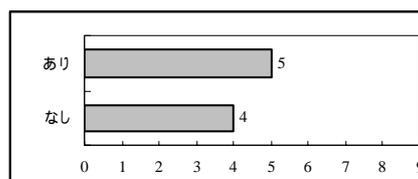


図5 外出する際の事前準備の有無

事故・ハプニング・困り事等

『事故・ハプニングの有無』については約半数の5人が経験している。特に視覚障害者は転落事故の経験があることが確認できます(図6)。『移動に関する困り事』に関しては9人中8人が“ある”としており、具体的には、車いす使用者の方では“垂直移動の困難さ”や“段差”についての意見であり、聴覚障害者の方では“交通量の多い狭い道での恐さ”について意見がでています(図7)。

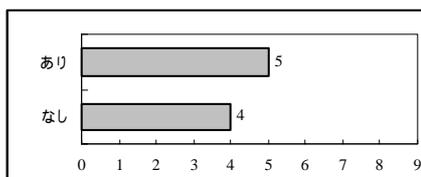


図6 事故・ハプニングの有無

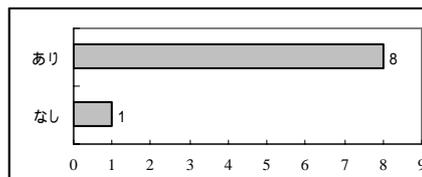


図7 移動に関する困り事

施設側への対応要求

『施設側への対応要求』に関しては、半数以上の9人中6人が“ある”としており、車いす使用者の方の“エレベータ等の整備の充実”や視覚障害者の方の“点字ブロックの整備”および“点字ブロック以外の配慮”等についての要求が目立ちます(図8)。

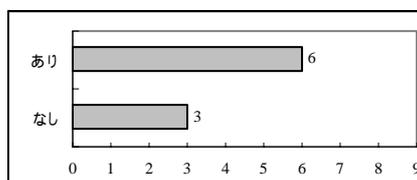


図8 施設側への対応要求

3-2. タウンウォッチング調査

1) 実施日時および場所(検討会実施)

日 時：平成13年10月26日(金) 9:30 ~ 16:00

場 所：ゆうゆうセンター 3階 展示活用室

2) 参加者人数：85名

調査員：19名

ショートコース：9名

肢体不自由者：2名 視覚障害者：1名 聴覚障害者：1名

高齢者：3名 疑似体験者：2名(手動車いす)

ロングコース：7名

肢体不自由者：1名 視覚障害者：2名 聴覚障害者：1名

子供連れの方：1名 疑似体験者：2名（インスタントシニア）

疑似体験コース：3名

手動車いす：1名 インスタントシニア：2名

介助者等：9名

スタッフ：25名（ヒアリング等/摂南大学田中研究室生：17名 サブ/近畿大学知花研究室生：8名）

協議会委員・事務局等：32名

3) 調査コース

ショートコース

ゆうゆうセンター 京阪河内森駅 JR 河内磐船駅 ゆうゆうセンター

ロングコース

ゆうゆうセンター JR 河内磐船駅 京阪河内森駅 交差点 1

交差点 2 交差点 3 交差点 4 ゆうゆうセンター

疑似体験コース

ゆうゆうセンター JR 河内磐船駅 交差点 5 交差点 3

いきいきランド交野（車移動） 交差点 3 交差点 2

ゆうゆうセンター

4) 調査方法

3 グループに分かれ、それぞれ『JR 河内磐船駅』『京阪河内森駅』『駅周辺道路』を調査員として歩く。

歩く時は、調査員お一人につき一人のヒアリングスタッフ（摂南大学工学部建築学科田中研究室の学生）がつく。

調査員には、普段どおりに歩いていただき、随時気づいたことをヒアリングスタッフに告げる。

ヒアリングスタッフは調査員からの意見に従い、チェックシートに問題点等を記入し、写真を撮る。場合によっては巻尺により計測する。

調査後、各コース別のグループに分かれ、調査員・ヒアリングスタッフが、ペア 1 組となり、配布したポストイットカードに問題点等を書き込む。

各ペアにより書き込まれた問題点カードは、A1 サイズの地図上の該当するポイントに貼り付け、問題点のグルーピングを行い、問題点個所やその内容をまとめる。

各グループでまとめられた地図を前に貼り出し、グループリーダーが代表で発表する。

また随時、調査員が補足説明を行う。